



境川緑地基本計画ワークショップ だより

第2号

境川緑地のアイデアをみんなで考え「まとめ」ました。

8月26日(金) 午前9時30分より、三好町教育学習センターに15名の参加者が集まり、第2回境川緑地基本計画ワークショップを開催しました。

まず、第1回で確認した現地の様子や計画条件の再確認と6月頃に実施された「境川に関するアンケート調査」の結果の概要についての報告があり、

参加者のみなさんに町民の方々の意見が伝えられました。

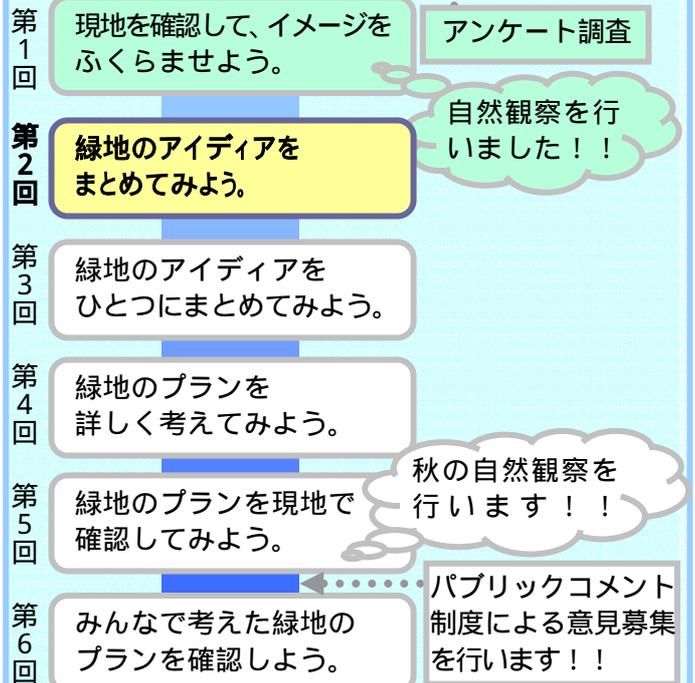
次に、「緑地のアイデアをまとめてみよう。」をテーマに、現地見学でそれぞれがメモしたアイデアをもとに各班にわかれて意見交換を行いました。各班とも境川緑地をどのようにしたいか、また、現状の気になることについて活発で真剣な意見交換が行われ、多くのアイデアが生まれました。

最後に、各班の代表者から境川緑地計画のアイデアについて発表がおこなわれ、各班の考えを全体で共有できました。



各班の意見交換の様子

〈ワークショップの全体の流れ〉



意見交換のまとめ (各班の代表者に発表していただきました。)

1班のアイデアのまとめ

区域割りについて

1班では、次のように区域を考えました。

- ・上流部は広久伝橋から三好ヶ丘高架橋までの区域を表しています。
- ・中流部は北部コミュニティ広場を中心とした区域を表しています。
- ・下流部は川原橋から東郷町との町境までの区域を表しています。

1班



上流・中流・下流部に関するアイデア

私たちは境川を人間にたとえて考えました。上流部(頭)には自然を残します。中流部(おなか)には子供を中心とした水に親しめる場とします。下流部(足)はジョギングやウォーキングができる場所にします。中流部の堤防道路はアスファルトではなく、木チップをひいてはどうでしょうか。下流部にはウォーキングなどの案内板やトイレが欲しいです。子供達が近づくには、コンクリートの法面が急で滑りやすく危険です。

計画地全体に関するアイデア

車の抜け道を歩行者のみの道にすれば安全になります。法面がコンクリートブロックばかりなので、自然石や火山石をつかってはどうでしょうか。

2班のアイデアのまとめ



区域割りについて

2班では、次のように区域を考えました。

- ・上流部は広久伝橋から伊保橋までの区域を表しています。
- ・中流部は北部コミュニティ広場を中心とした区域を表しています。
- ・下流部は小石川合流部から東郷町との町境までの区域を表しています。

2班

上流・中流・下流部に関するアイデア

上流部は今の自然を生かして、道路は狭く未舗装のまま整備します。中流部のコミュニティ広場に子供のたまり場をつくります。下流部にはサイクリングやウォーキングのための道を整備します。寺田橋近辺の水鳥や草花を維持していきたいです。中流部や下流部の道路は自動車の交通量が多いので問題だと考えます。

計画地全体に関するアイデア

昔は生活に密着していた境川も、今は排水路のように思われています。草刈りなどの河川の維持管理に住民も取り組めたらよいと思います。生き物や川について学べる場として、ピオトープが欲しいです。魚とりやホタル狩りのような子供がかかわるイベントの場にならないでしょうか。

3班のアイデアのまとめ



区域割りについて

3班では、次のように区域を考えました。

- ・上流部は広久伝橋から井守橋までの区域を表しています。
- ・中流部は北部コミュニティ広場を中心とした区域を表しています。
- ・下流部は川原橋から東郷町との町境までの区域を表しています。

3班

上流・中流・下流部に関するアイデア

上流部の自然はできるだけ残しておきたいです。上流部では草が生い茂っているため水面が見えなくなっています。中流部には、遠くからでもそこに川があるとわかるようなランドマークとなる並木があったほうがいいです。今は木陰がないので、並木は木陰にもなって休憩場所になります。下流部は、水辺に降りられるような場所にしたいです。

計画地全体に関するアイデア

水量の確保も重要な問題だなと感じています。改修工事では自然・親水工法を取り入れて欲しいです。川はピオトープのようにしたいです。ところどころに、境川に安全に近づける小道が欲しいです。

参加者の皆さんから出された、たくさんのアイデアの中から、代表的なものを紹介させていただきました。